

会 報

あべまき

夏秋号/2024. 09. 21

Vol. 63 (編集: 発行)

豊田市自然観察の森・森先案内人

あべまきの会

豊田市東山町4丁目1206-1

0565-88-1310

abemaki

実現した初夏研修会

5月19日、4年ぶりのバス利用研修会。会員14名。目的地は稲武の「タカドヤ湿地」と足助「香嵐溪周辺」で、スタートは小雨でしたが目的地に着く頃には、すがすがしい好天気になりました。

雨上がりの5月のモミジの新緑につつまれての観察会でした。

ひときわ目を引いた白い花はコヤブデマリ、ブナ帯でみられる種。湿地の中程にはノハナショウブの紫がヤマドリゼンマイの緑に映えて活気をみせていました。

お弁当は「ちゅうま」のテラスで食べて午後は香嵐溪周りを散策しました。ヤマジノタツナミソウ花、トチバニンジン、モミジハグマ、トリアシショウマ等の植物が見られました。

以下参加者の感想です。

「久しぶりのバス研、楽しかった」

「湿地で狭い場所なのに沢山の植物が見られて満足。ヤブデマリが美しかった」

「久しぶりに皆さんと山歩き、楽しかったです。タカドヤ湿地に行きたかったなので、今回かなえられ嬉しいです」

あべまきの会は、多くの方に

豊田市自然観察の森で

自然とのふれあいを通じて、感動や喜びを
体験してほしいと思っています！

あべまきの会と一緒に森歩き！

あべまきの会のインタープリターが森を案内します。

●毎週水曜日 午前10時～正午

※ 無料 現地当日受付 午前9時30分～

※ 9時30分時点で 雨天の時→中止

熱中症指数28以上の場合→中止



「今回はとても楽しい遠足気分の観察会でした。タカドヤをゆっくり見て、充実した時間を過ごせました」

「初めて知る草花ばかりで、覚えきれませんでした。オオミズアオという蛾が印象的」

矢並湿地観察

6月16日定例会の後、あべまきの会の月例観察会として、自由観察の日で一般開放されている矢並湿地に出かけました。

この時期に出かけたことはあまりないので、何が見られるのが楽しみでした。駐車場に車を置いて、急な階段を降り湿地まで。湿地の中は私たちだけの貸し切り状態でした。

「あれはこの辺にあったな」と記憶をたどりながら、湿地の中の木道を歩きます。オカノトラノオの白い花が目にとまりました。株も沢山あります。この辺にタチシオデがあったなと目を凝らしたら、もう緑の実がついていました。キセルアザミ、スズカアザミ、ヘビノボラズなど湿地を代表する植物が目に残ります。

中央の観察場で植物友の会の方の説明を受けました。シロバナモウセンゴケ、タイワンカモノハシ、そしてカキランが可憐な花を咲かせています。トキソウは終わっていて、残念。ミカワシオガマは沢山の株が出ていました。秋のシラタマホシクサとミカワシオガマの競演が楽しみです。コオニユリの株も沢山あって、咲いたら綺麗だろうなと思いました。

ざっと1時間ほどの観察でしたが、いろいろな植物や蝶やトンボなど見ることができました。また季節によって見られるものも変わって楽しみです。

湿地は放っておけば土壌の堆積と、強い植物の侵入によって消滅してしまう恐れがあります。湿地でしか生きられない貴重な動植物を守るために、地元の保存団体の方が手入れをして、湿地を守っています。そういった方々に感謝しながら年に数回の観察の日に、貴重な動植物に会いに行けたらと思います。

(参加者8名)

夏の花たち



カラスウリ



ミゾカクシ



ヤブレガサ



ウマノスズクサ



ネコハギ

ルリビタキは漂鳥

今回は、「ルリビタキ」についてのコラムを。



豊田市自然観察の森には、冬にやってきます。「ヨシの湿地」辺りでよく見かけます。オスは、頭部や背面、尾羽が鮮やかな瑠璃色で、脇に黄色が入るきれいな鳥です。メスは、青が尾羽に入るくらいであまり目立ちません。

「冬鳥」なので、わたしはシベリアや中国東北部から越冬にやってくると思っていました。でも、ルリビタキは、春夏は本州中部では 1500m 以上の亜高山帯で繁殖し、秋冬に山地や平地に来て越冬する漂鳥(ひょうちょう)だと知りました。

夏に御嶽山の王滝登山口にある田ノ原自然公園に毎年行きます。目当ては「ホシガラス」「メボソムシクイ」「ウソ」「オコジョ」そして「ルリビタキ」

田ノ原は標高 2200m～2300m。そこでルリビタキは囀り、繁殖をしていました。夏と冬とでは、羽根の色が変わってしまう鳥もいるのですが、ルリビタキは、あまり変化がないようです。ただ、若い鳥はオスでも青があまり鮮やかでなく、メスと似た感じだと聞きます。鮮やかな青のオスになるのには 2～3 年かかるようです。

今年の夏に御嶽山で会ったあのオスや幼鳥は、冬にはどこへ行くのかねえ。観察の森に来てくれるといいですねえ。

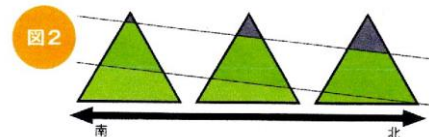


(田ノ原) 幼鳥 オス



田ノ原は、本州の中部に位置し、亜高山帯は 1500m～2400m 前後。

ルリビタキは、この亜高山帯で夏、繁殖し、秋になると平地や山地帯に移動します。



本州中部では、1500m 以上の亜高山帯で夏過ごしますが、北海道では、低い山地や平地で繁殖する夏鳥になっています。日本は南北に長いですね。

そして、秋になると本州の中部から以西の平地や山地に移動していきます。ですから、豊田市自然観察の森の個体が北海道から来ているものかもしれません。

そして、秋になると本州の中部から以西の平地や山地に移動していきます。ですから、豊田市自然観察の森の個体が北海道から来ているものかもしれません。



(山階鳥類研究所 2002)

御嶽山→観察の森と北海道石狩→観察の森。距離にしたら 10 倍ほどのちがい。海あり、山あり、悪天候あり、天敵の襲撃あり。北海道北部から九州まで行く個体もいるのですから驚きです。

＜秋 豊田市自然市観察の森で＞

田ノ原ルリ男「やあ、来るのどうだった。オレは、1 億羽ばたきくらいで来たよ。」

石狩ルリ太「途中に嵐も来て、大変だった。ぼくは 10 億羽ばたきくらいかな。」

